

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	- 基礎学力の定着に課題がある。 ⇒朝の学習、ドリルパークやスタディサプリ等の学習ソフトの導入、単元テストの実施により、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 - 学力のばらつきがある。 ⇒個別最適な学びの研究を進め、個に応じた学びを提供できる授業改善に取り組む。
思考・判断・表現	- 学習面のみならず様々な生活場面において、思考力・判断力・表現力が身に着いていない様子が、行動等から見受けられる。 ⇒学校課題研究を軸に、主体性と対話力を育む教育活動について研究を進め、各教科・特別活動・総合的な学習の時間等の一体的な見直しを図る。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎学力のばらつきや応用力不足、自主学習の定着が課題。 <指導上の課題> ・個別指導の難しさ、学習成果の可視化不足。	⇒ <学習上の向上策> - AI活用等により個別最適な学びを促進し、いつでも疑問を問える環境を整備。単元テストを充実させ、定着度の確認の頻度を上げる。【教科毎に適宜】 <指導上の向上策> - 学習データを分析し、個別指導を確立。探究学習や実験を増やし、応用力を強化。ミラシード等で自主学習環境を整備。【毎朝】
思考・判断・表現	<学習上の課題> - 論理的思考の弱さ、表現力の不足、説明力の未熟さ。 <指導上の課題> - 探究型学習の不足、討論・発表の機会減、実社会との結びつき不足。	⇒ <学習上の向上策> - PBLを導入し、問題解決力を育成。記述式問題の演習を強化し、論理的思考を伸ばす。討論の場を増やし、表現力を向上。【教科毎に適宜】 <指導上の向上策> - 学校行事等を活かして学びの実感を強化。協働学習を促進し、思考の深化を支援。探究型学習を継続し、主体的な学びを支援。【学校行事・総合】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	・プロンプト作成の補助付き生成AIを、授業へ導入した。 ・単元テストの実施による、定着度の向上を図った。 ・ICTを活用した、自主学習環境の整備を行った。 ・校内研究授業や校内研修による、主体的な学習という観点からの授業改善を図った。
思考・判断・表現	B	・課題を踏まえた各教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動における一体的な計画の見直しを図った。 ・生徒の主体性を育む教育活動の研修や実践を行った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	【国語】漢字や語彙に関する問いに関しては、全国・県平均と同等、もしくは平均を上回っている。 ⇒言語に関する基礎基本はおおむね定着しているといえる。 【数学】基本的に全国・県平均を下回っており、特に文字式の問いや度数分布に関する問いについては、平均を15ポイント以上下回っている。 ⇒割合などの小学校の既習事項が未定着の可能性が考えられるとともに、文字などの形で表される概念的なものについて、十分に理解が深まっていないと考えられる。
思考・判断・表現	【国語】論理的に自分の考えを相手に伝える問いについて、全国・県平均を15ポイント以上下回っている。 ⇒自分の考えを相手に伝える力、論理的思考力に大きな課題があると考えられる。 【数学】数学的な表現を用いた説明や、証明に関する問いについて、全国・県平均を10ポイント以上下回っている。 ⇒数学的に説明する力、論理的思考力に課題があると考えられる。 【共通】 ⇒論理的に思考し、それを表現する力に課題があると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・全体として、知識・技能における基礎事項の定着率が非常に低い傾向にある。(思考・判断・表現の観点よりもポイントが低い。) ・特に、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、数学の「数と式」、社会の「歴史との対話」、理科の「粒子を柱とする領域」について、市の平均を10ポイント以上下回っている。 ⇒どの教科の学習にも共通する言語的な知識が不足していることが考えられる。言葉の意味、文脈を捉えたうえでの言葉の理解ができていない傾向があり、各教科の学習内容の未定着にもつながっていると考えられる。
思考・判断・表現	・上記同様、全体として、思考・判断・表現の力の定着率が低い傾向にある。 ・代表的なものとして、国語の「話すこと・聞くこと」のポイントの低さがあげられる。 ⇒上記と関連し、基礎的な言語事項の未定着が根本的な原因として考えられる。また、それに伴い、他者(問題文)との対話(読み取り)から、その意図を理解し、それに正対して思考・判断し、相手に伝えるように表現しようとする態度に欠けていることが考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・プロンプト作成の補助付き生成AIを、授業へ導入。使い方などの研修を実施した。 ・単元テストの実施による、定着度の向上。 ・ICTを活用した、自主学習環境の整備。 ・校内研究授業や、校内研修による授業改善。	変更なし
思考・判断・表現	B	・各教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動における教科横断的にも考える授業の計画・実施。 ・生徒の主体性を育む教育活動の研修や実践。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)